

静岡大学学術リポジトリ について

説明資料

静岡大学学術リポジトリについて

1. 学術リポジトリとは
2. 学術リポジトリの状況
3. 著作権処理について
4. 学術リポジトリのメリット

1. 学術リポジトリとは

- ・ 学術リポジトリ(Institutional Repository)とは、大学等の学術研究機関で生産された電子的生産物を保存・公開することを目的とした学術情報資源管理システムです。学術機関自らの手で原則として無料で公開するものです。
- ・ Repository=①貯蔵庫, 倉庫, 納骨堂, 埋葬所②知識などの宝庫③秘密等を打ち分けられる

電子的な知的生産物

=学術成果物

- 学術雑誌に発表された
査読済み学術論文
- プレプリント
- 科学研究費補助金成果報告書
- ワーキングペーパー
- テクニカルペーパー
- 会議発表論文
- 学会発表スライド
- 紀要掲載論文
- 学位論文
- 技術文書
- 調査報告
- 学生向け電子教材
- その他の多彩な文献
- データ
- データベース
- e-learning用の各種コンテンツ
- その他

検索実例

(名古屋大学リポジトリ)

名古屋大学学術機関リポジトリ
NAGOYA Re

Search
 Go
[Advanced Search](#)

→ [Home](#)

Browse

- [Communities & Collections](#)
- [Titles](#)
- [Authors](#)
- [By Date](#)

→ [Help](#)

NAGOYA Re
お知らせ
NAGOYA Reposit
2006.2.1から7.50

検索
All
項目などを指定した詳細が
現在の登録記事一覧は、
Googleを利用したサイト
Google

メタデータ

この記事にリンクをする際のURIは、<http://hdl.handle.net/2237/5687>

Title: 日本語の数量詞構文について
Other Titles: On Quantifier Construction in Japanese
Authors: 阪東, 正子
Bando, Masako
Issue Date: Mar-1995
Publisher: 名古屋大学大学院文学研究科
Citation: 名古屋大学人文科学研究. v.24, 1995, p.75-91
URI: <http://hdl.handle.net/2237/5687>
ISSN: 09109803
Appears in Collections: [名古屋大学人文科学研究](#)

Files in This Item:

File	Size	Format	
BZ002405075.pdf	574Kb	Adobe PDF	View/Open

日本語の数量詞構文について

本文

阪 東 正 子

1. はじめに

日本語の数量詞を含む構文（以下数量詞構文という）は、他の構文に見られない特徴があることが指摘されてきた。数量詞というのは、複数形の語尾をもたない日本語の名詞^①の数や量をあらわすときに使われる言葉で、一般には1, 2, 3などの数を表す数詞と、人, 冊, 本などの類別詞^②からなるものを言うが、他に全部, 半分, 大部分などの部分数詞や, 大勢, 少し, たくさんなどの量をあらわすものも含めている。

数量詞構文の特徴というのは、文中の数量詞は、それが修飾する名詞（先行詞と呼ぶ。cf. Culicover and Wilkins 1984, 1986）と切りはなして移動することが

2. 学術リポジトリの状況

世界のリポジトリ

- 世界中で主要大学がもつ—951機関
日本では43機関 (2007.10.31現在)

<http://roar.eprints.org>

- DSpace マサチューセッツ工科大学 (米)
<https://dspace.mit.edu/index.jsp>
- eScholarship カリフォルニア大学 (米)
<http://repositories.cdlib.org/escholarship>
- e-Prints Soton サザンプトン大学 (英)
<http://eprints.soton.ac.uk>

国内のリポジトリ

- Junii+機関リポジトリポータル
<http://juniplus.csc.nii.ac.jp/>
- 名古屋大学
<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/dspace/index.jsp>
- 三重大学<http://miuse.mie-u.ac.jp/>
- 北海道大学
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/index.ja.jsp>
- その他の構築機関については以下参照
<http://www.nii.ac.jp/irp/info/list.html>

3. 著作権処理について

- ①**著作権が著者にある場合**は、著者の許諾により公開できます。
共著者がいる場合は、その許可を頂いてください。
- ②**著作権が出版社にある場合**は、出版社の許諾があれば公開できます。海外の出版社の多くはセルフ・アーカイブ(研究者による自己保管)を認めています。
- ③**著作権の所在が曖昧な場合**もあります。必要があれば個別に問い合わせるなど図書館にて調査します。

著作権ポリシーの確認方法

海外の出版社・雑誌タイトルの著作権ポリシー確認

- ・ **Sherpa/RoMEO**

Publisher copyright policies & self-archiving

<<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php>>

国内学協会の著作権ポリシー確認

- ・ **SCPJ 学協会著作権ポリシーデータベース**

<<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/>>

4. 学術リポジトリのメリット

- 大学は
 - 研究機関としての知名度の向上
 - 学術情報の一元的な管理, 説明責任
 - 産学連携の促進
- 教員は
 - 研究成果の管理, 発信, 保存のコストを節約
 - 自らの研究成果の影響力(インパクト)の向上
 - 学術情報(研究成果)を広く公開
 - 業績一覧等を随時出力することができる
- 学外者・地域は
 - 本学の研究動向を一元的に検索、迅速に把握

学術リポジトリについて

終わり